











































番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	物理	3	A理	4	選択

何を学ぶか

○自然界にある現象のうち、物理的な現象について「物理基礎」よりもさらに発展的に扱います。力学領域と電磁気領域と原子・分子領域の諸現象について、その法則性を深く学びます。

学習目標

○自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見だし、諸現象をその法則性・規則性で説明できることを目指します。

学習方法

○力学領域・電磁気領域・原子分子領域にわけ、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。

評価方法

- ・定期考査……毎回の考査において、約70点を基礎的問題、約30点を応用的問題を出題し、そのうち30点以上の得点を合格点とする。
- ・提出物 他……適宜提出を求め、取り組みの姿勢や内容に応じて採点する。
- ・年度末において、定期考査と提出物他の得点を総合し、単位認定を決定する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
物理	様々な運動	/	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/	/									/	/	/	/	/	/				
	波動	/											/	/	/	■	■	■	■							/	/	/	/	/	/			
	電磁気	/											/	/	/					■	■	■	■	■	■		/	/	/	/	/			
	原子分子	/											/	/	/										■		/	/	/	■	■	/	/	/



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-24	生物	3	S理・A理	4	選択

### 何を学ぶか

- 生物基礎の内容を、さらに深く掘り下げて、次の事柄を学習する。
- ・細胞、タンパク質、代謝(生体内での化学反応)等について
  - ・遺伝子とそのはたらきについて
  - ・有性生殖と発生について(動物を中心に)
  - ・動物の刺激受容と反応・行動、植物の環境に対する反応について
  - ・生物の集団(個体群、生物群集)のあり方、生物集団と環境の関係について
  - ・生物進化と系統について

### 学習目標

- 生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、生物学的にとらえる力を養う。
- 授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深める。
- 身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高める。
- さらに生物や生命現象と人間の関わりについての理解を深める。

### 学習方法

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は先生の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につける。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

### 評価方法

- ・定期考査は年間5回実施する。授業内容の確認として小テストを実施する場合もある。
  - ・年間7回程度の実験を行い、レポートを作成する。
  - ・考査点と平常点(1~2割)で評価する。
- \* 平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等により知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

○5月

○7月

○10月

○12月

○1月

○は定期考査実施予定

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
生物	生命現象と物質	■	■	■	■																			
	遺伝子のはたらき					■	■	■	■															
	生殖と発生												■	■	■									
	生物の環境応答														■	■	■							
	生態と環境																	■	■	■				
	生物進化と系統																					■	■	



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-26	地学基礎	3	S文・A文	2	必修

### 何を学ぶか

- 地球とそれを取りまく宇宙のようすを知り、これらがどのように誕生し、どのように遷移して現在に至ったのか、またこれらのことがどのようにして明らかにされてきたかを学びます。
- 内容は「固体地球とその変動」、「移り変わる地球」、「大気と海洋」、「宇宙の構成」、「自然との共生」。

### 学習目標

- 一つは惑星としての地球の特徴および地球表層や内部に見られる地学的事象を、地球表層や内部を相互に関連させ、地球の歴史の経過の中でとらえることです。
- もう一つは地球の大気圏及び水圏での現象が太陽放射エネルギーを原動力としていることと、太陽や恒星の活動を通して宇宙の構造や広がりを理解することです。

### 学習方法

- 教科書については、本文を熟読することはもちろんのこと、図表・グラフ・写真などについても丁寧にすみずみまで目を通し、地学の基本的な概念の形成を図ります。
- 実習の時間については、各単元の学習活動と関連させながら、図表の読みとりやグラフ等のデータ処理をして考察をします。
- また、実験観察や自然観察を通して、学習目標と関連させながら、深く学習していきます。

### 評価方法

- 定期考査については、1・2学期に中間・期末考査と3学期に学年末考査を実施します。
- 実習や実験観察などに関する提出物は、創意工夫されているかに着目します。
- これらを中心に知識・理解・興味・意欲の到達度の度合いを判断し評価します。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
地学基礎	地球の構成と運動	/	■	■	■	■				/	/	/							/	/	/			
	地球の変遷	/					■	■	■	■	/	/	/						/	/	/			
	大気と海洋	/								■	/	/	■	■	■	■			/	/	/			
	太陽系と宇宙	/									/	/	/	/		■	■	■	■	■	/	/	/	
	地球の環境	/									/	/	/	/					■	/	/	■	■	/







番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-30	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	S文	2	選択

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・トレーニングを行う。その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。
- ・活動は前期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。
- ・グループで協力し、各種目の技術向上を目指し、生涯体育に繋げることを目標とする。

評価方法

- ・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。
- ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	男子																					
	女子																					
	前期選択																					
	後期選択																					

\*種目は ・ネット型(テニス・バドミントン・バレーボール) ・ゴール型(サッカー・バスケットボール)  
 ・ベースボール型(ソフトボール)



















番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-40	英語演習	3	A文	3	選択

### 何を学ぶか

・大学共通テスト、四年制大学受験レベルの問題に取り組み、論理的思考を養うとともに、英語を正しく読む力を身につける。

### 学習目標

- ・1, 2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。
- ・卒業時にCEFR B1レベルの英語力取得を目指す。

### 学習方法

- 1 英文を読み、単語の意味や構文を学び、内容を理解する。
- 2 大意把握に有効な速読スキルを身につけるために速読テストを行う。

### 評価方法

・授業中に行う速読テストその他の小テストを1割、提出物や授業参加意欲を1割として、定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語演習	Lesson 1,2,3	/	■	■	■	■	■						/	/	/										/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	Lesson 4,5,6	/						■	■	■	■	■		/	/	/										/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	
	Lesson 7,8	/											■		/	/	/									/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	
	Lesson 9,10	/																		■	■	■					/	/		/	/	/	/	/	/	/	/
	Lesson 11,12,13	/																									/	/		/	/	/	/	/	/	/	/
	Lesson 14,15	/																									■	/	/		■	■	/	/	/	/	/





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-43	フードデザイン	3	S文	2	選択

### 何を学ぶか

- ・食育の推進や食文化の創造、発展のために必要な食生活の知識や技術を習得します。
- ・栄養、食品、調理、食文化の多様性、歴史等について事例を見ながら学習します。
- ・調理・栄養に関して簡単な制作を行い、食生活に役立てます。

### 学習目標

- ・食生活に関する栄養、食品、調理などの基礎を学び、食育の推進を図ると共に、食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につけます。

### 学習方法

- ・授業の前に教科書を一読し、概要を掴んでおきましょう。
- ・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
- ・実験・実習に対して積極的に取り組み、調理技術、手腕の上達を目指して努力しましょう。
- ・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしていきましょう。

### 評価方法

- ・定期考査、課題レポート、提出物(授業ノート、実習作品等)、授業や実験・実習に対する取り組みについて、「意欲・関心」「技能」50%、「知識・理解」「思考・判断・表現」50%、の4つの観点で総合的に判断します。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
フードデザイン	栄養と食品	■	■	■						■	■	■								■	■	
	食品加工と食品衛生	■			■	■				■	■	■									■	■
	日本の食文化	■					■	■	■			■	■	■							■	■
	世界の食文化	■							■	■				■							■	■
	食文化に関する制作	■									■	■	■	■								■
	茶の湯の歴史・文化	■									■	■	■		■	■	■					■
	調理の計画と献立	■									■	■	■					■	■	■		■



